

7/27 (A) 毎日

父「報告書納得できぬ」

岩手・中2自殺アンケート開示要求

岩手県矢巾町の町立
中学2年、村松亮さん
(13)がいじめを苦に自
殺したとみられる問題
で、中学校の校長らは
26日前、村松さんの
自宅で父親(40)にいじ
め調査報告書の内容を
報告した。父親は、い
じめが自殺の一因と認
められたことに「ほっ
としている」と話す。

方、「納得できる内容
ではないとして、全
生徒に実施したアンケ
ートの回答をすべて見
せるよう求めた。
報告は約3時間半に
及んだ。検証対象にな
った同級生らによる村
松さんへの13件の行為
について、詳しい説明
があったという。
その後、報道陣の取

材に心した父親は「い
じめがあった事実を学
校も認め、さらにいじ
めが原因と自殺したこ
とを認めて謝罪しても
らいほっとしている」
と語った。一方で検証
対象になりながらいじ
めと判断されなかった
7件について「私が思
ういじめと、学校が思
ういじめは認識が違っ

と思ったとし、「(生
徒へのアンケートの
回答一枚一枚に目を通
し、内容を把握したい」
と述べた。報告には、
2011年にいじめを
受けて自殺した大津市
立中学2年の男子生徒
(当時13歳)の父親
(50)も同席し、「報告
書は教師のフィルター
を通したものだ」と指

摘した。

校長は報告後、「学
校として調べられるこ
とについては、全てお
伝えした。一定の理解
が得られたと思うこと
述べた。

【近藤 加藤 藤井 明子、
一 村 祐 士 朗】

同級生らを告訴

村松さんの父親(40)
は26日、岩手県警本部
を訪れ、村松さんが同
級生ら4人にいじめを
受けたとして、暴行容
疑などで告訴状を提出
し、県警は受理した。

【藤井 明子】

校長改めて謝罪

村松さんが通ってい
た中学校の校長と矢巾
町教委の越秀敏教育長
が26日夜、同校で記者
会見した。校長は、遺
族と在校生の保護者に
いじめの調査報告書を
説明し、村松さんの命
を守れなかったことを
謝罪したと説明。その
うえで「多くの方々に
心痛と不安を与えた。
教育に対する信頼を大
きく損なったことをお
わびしたい」と述べ、
深々と頭を下げた。

【佐々木 洋】

いじめ自殺 担任謝罪

父親に「自分に力なかった」

手
岩

宇都宮市町の中学
2年 村松亮さん(13)
がいじめを苦に自殺し
たと思われる問題で、
村松さんの女性担任教
諭が4日、村松さんの
自宅を訪れ、父親(40)
に「いじめに早く気づ
けず、自分に力なかつ
た」と謝罪した。
いじめの情報を校内
で共有できなかったこ
とについて「生徒指導
主事は4月から新しく
なったので信用がま
なかった。亮君との信
頼関係もあり、自分で

何とかしたかったと
話した。
村松さんのいじめを
巡っては、中学校がい
じめ防止対策推進法に
基づき、生徒指導主事
と
文科省は4日、
余小中・高校に対し
組織でいじめ問題に対
応する体制が整ってい
るか夏休み中に重点検
査するよう求める通知を
出した。
村松さんの学校には
いじめ防止対策推進法
が義務づける「いじめ

対策組織」が設置され
ていたが、文科省は機
能していなかったこと
を問題視。2学期の始
業日前後は子どもの自
殺が増えることもあ
り、夏休み中に各校に
体制を見直しをもち
こらせた。
学校の調査報告書に

や養護教員らで構成す
るいじめ防止組織を設
置していたが、機能し
ていなかった。町教育
委員会は今月にも第三
者委員会を発足させ、
一連の対応について調
査する。(二村祐士朗)
全小中・高に
文科省通知
よると、村松さんは担
任者ひとりとする「生
徒録ノート」にいじ
めや自殺をほのめかす
記述をしていたが、担
任はいじめと認識でき
なかった。また担任は
いじめ対策組織に相談
していなかった。
文科省の通知は「さ

「組織的対応を」

さいな非候や訴えなど
いじめに関する情報が
あれば教職員で抱え込
まずに組織的に対応す
ることと強調。訴え
はすべていじめ対策組
織に報告・相談するよ
う求めた。いじめの報
告・相談が多い教員が
指導力不足と評価され
る風潮が学校に残って
いるため、意識改革の
必要性も指摘した。
いじめ対策組織につ
いては、担任や部活動
顧問など日常的に子ど
もと接する機会が多い
教員層数をメンバーに
入れるとともに、組織
の存在や活動を子ども
に周知することも求め
た。(三木隆介)

教頭が危険ドラッグ

宇都宮の小学校 懲戒免職に

危険ドラッグを使用
したとして、栃木県教
育委員会は4日、宇都
宮市立岡本西小学校の
村田明重教頭(57)を懲
戒免職処分にした。県
教委に対し「2010
年ごろからラッシュ
という薬物を多い時は
月1〜2回使ってい
たと事実関係を認め
たという。
県教委によると、村
田教頭は5月23日、宇
都宮市内で、知人が持
参した危険ドラッグを
使用したとしている。
勤務先の小学校が6月

19日、警察の匿名捜査
を受けた宇都宮市教
委を通じて連絡があ
り、発覚。校内で使っ

た形跡はないという。
県教委の古沢利博教
育長は「一言語彙断の許
されない行為で、誠に
遺憾。再発防止と信頼
の回復に努める」とコ
メントを出した。

【加藤佑輔】

8/5(水) 毎日

気づいて 子の異変

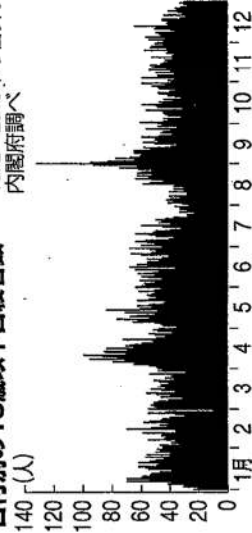
自殺 長期休み明け増加

■全国共通の子ども向けの電話相談
 ○24時間子供SOSダイヤル
 0570・0・78310
 (通話料が必要、保護者も可)
 ○チャイルドライン
 0120・99・7777
 (月～土曜の午後4～9時、
 通話無料、18歳まで)

日付別の18歳以下自殺者数

1972～2013年の合算。

内閣府調べ



夏休みなど長期休暇が明ける前後に、子どもの自殺が増加する傾向が、内閣府の調査で裏付けられた。いじめ対策や子どもの支援に関わってきた人たちは、「子どもの異変に敏感になって」と呼びかけている。

▶1面参照

「美感通りの数字だ。休み明けに多くの子どもが自殺している現実を知ってほしい。いじめ問題に取り組むNPO法人「シエントハートプロジェクト」理

遅い起床・元気なし・腹痛

事の小森美登里さん(58) 横浜市 にはそう話した。

1998年の夏休み中に、長女の香澄さん(当時15)がいじめを苦に自殺。教員や保護者への講演に取り組んできた。子どもの命を守るために「最も大事」と強調するのが夏休みだ。「いじめに苦しむ子どもは、学校が始まる目を指折り数えて追い詰められている」。いじめが解消していると期待して登校したが変わらず、その落胆が自殺につながっていると見る。

「子どもは親に悩みを話したくないため、学校の役割が大きい」と小森さんは言う。先生がいじめに気づいたら、被書着に会って「あなたをこうして守る」と伝え、その子が納得したら、具体的な行動を取るべきだという。

小森さんは娘が苦しんでいると気づき、必死に支えようとしたが、自殺するとは思ってもみなかった。「いじめが心を深く傷つけ、生

きる力まで奪うと気づいていなかった。命に関わるという認識が大切です」

どちらなら、異変に気づけるのか。不登校の子らの居場所を川崎市で運営するNPO法人「フリースペースたまりば」の西野博之理事長(55)は「日常からアノチキを立てていないと、子どものSOSに気づきにくい」と指摘する。

起床が遅くなったり、元気がないように見えたりしても、大人は「怠けているだけ」などと見過ごしがちだ。

だがいじめや勉強の重圧など悩みを抱えている場合もある。腹痛などの身体症状もあつたら要注意。問いただすのではなく寄り添って気持ちを打ち明けやすいようにしてほしいという。

西野さんは「学校は命を削ってまで行くところではない。本当につらい時はもっと休むことも考えて」とアドバイスする。

(大田 景生)